

## 1 開会

### 2 土屋市長あいさつ

今年度、第1回目の総合教育会議にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

また日頃から、峯村教育長はじめ、教育委員の皆様におかれましては、上田市の子どもたちの教育の充実、また家庭のために多大なご尽力をいただいております。心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の関係では、一人一人の皆様方の予防実践活動をしていただいております。感謝申し上げます。また引き続き、予防実践活動をお願いしたいと思っています。

現在、上田圏域の感染警戒レベルが4に引き上げられております。そういう中で、教育委員の皆様、そしてまた学校現場の皆様におかれましても学びを止めないための現場での対応、取り組みにつきまして、積極的にそしてまたご尽力をいただいております。改めて心から感謝申し上げます。

さて本日の会議ですが、一つ目には「西内小学校の統合について」、二つ目としまして、「GIGA スクール構想の可能性について」、そして三つ目として「教育委員会に係る組織改正について」を会議事項として取り上げさせていただきました。

上田市の教育現場での取り組み、あるいは情報共有を図りながら皆様方これからの子どもたちのため、どのような形で進めたら効果的になるかということも含めまして、それらの取り組みに繋がるように、ともに考えていきたいと思っています。

未来予測が困難な時代であります。生きるということ、そして命のこと、子どもたちのこれからの将来のこと、様々な課題がありますが、それら上田市を取り巻く現状や課題、それらにつきまして教育委員会の教育委員の皆様と市長部局がしっかりと情報を共有することによって、教育大綱に掲げてあります「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」の実現に繋がることを大いに期待しております。

皆様と意見交換できることを大変ありがたく思っています。どうぞよろしく願いいたします。

### 3 峯村教育長あいさつ

本年度第1回目となります上田市総合教育会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

土屋市長には上田市の教育行政発展のため、日頃から多大なるご支援ご協力をいただいております。心から御礼を申し上げます。ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症対策につきましては、市長のご挨拶の中にもありましたように、学校での学びを止めることのないよう、学校職員が一丸となって対策を講じている状況でございます。

先週、上田圏域の感染警戒レベルが3から4に引き上げられた他、今年はインフルエンザとの同時流行も懸念されたことから、引き続き、感染対策を徹底してまいりたいと考えております。

さて、本日は「西内小学校の統合について」、「GIGA スクール構想の可能性について」、「教

育委員会に係る組織改正について」の 3 項目を土屋市長と意見交換をする機会を頂戴いたしました。

いずれの項目も大変重要なテーマでございます。このうち、西内小学校の統合につきましては、今年度の市議会 9 月定例会初日の全員協議会でもご報告を申し上げましたように、教育委員会では、令和 6 年 4 月に丸子中央小学校と統合することを決定いたしました。学校の統合は、現在の上田市が発足してから初めてのことでございまして、合併前では平成 8 年の塩田西小学校の新設統合以来となります。

学校は児童生徒の学びの場だけではなく、地域コミュニティの核となる場でもあることから、統合を決定するまでの間、保護者や地域の皆様と慎重に協議を重ねてまいりました。

本日の会議では、今回の統合に対する市長のお考えをお聞きしながら、教育委員の皆さんと意見交換をお願いしたいと思っております。

また、GIGA スクール構想の可能性についてでございますが、令和 2 年度からタブレット端末などの機器の整備だけでなく、校内の Wi-Fi 環境の充実など教育環境の充実にご配慮をいただきました。

こうした中での学校現場の授業へのタブレット端末の活用状況につきましても、同様に意見交換をお願いしたいと考えております。

本日はお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 4 会議事項

### (1) 西内小学校の統合について

#### ●土屋市長

資料 1 により説明

- ・全国的に少子化が進む中で、上田市においても今回の西内小学校に限らず、小中学校の児童生徒の減少は続き、これに伴う学校の小規模化にどのように対応していくかということは、市としても大きな課題になっている。
- ・西内小学校については、児童数の減少による学校の小規模化を憂い、長年に渡り地域の皆様が独自に学校のあり方に関する協議を重ねてこられた。
- ・令和 3 年 3 月には地域の代表の方が市役所にお越しになり、地域の皆様が独自に実施された西内小学校に係るアンケート調査の結果報告があり、合わせて意見交換をさせていただいた。
- ・教育長とともに、西内小学校に関する地域の皆様の切実な様々な思いをお聞きした。
- ・昨年 7 月の上田市総合教育会議では、上田市の小中学校のあり方に関する基本方針のうち、学びの環境について、保護者をはじめとする市民の皆様と課題や情報を共有して進めることが重要であると申し上げた。
- ・本日は、教育委員の皆様から統合を決定するにあたり、考慮された点等についてお話をお聞きしたい。

#### ●委員

これからの社会は、先ほど市長の話にもあったように予測困難な社会である。Society5.0、あるいは IoT・ロボット・AI の時代などとも言われている。例えば 2045 年あたりには人工知能 AI が人間の知能を超えるという話、その頃には今の仕事の半分がなくなるか、または置換されているという話もある。

予測困難な未来が待っているわけだが、そういう中であって、上田市としてどういう子どもを育てたいか、子どもたちにどういう力をつけたいかという観点で考えてきたつもりである。

未来予測が困難なときに、やはり子どもには「生きる力」をつけていきたい。「生きる力」とは、以前から言われているように、「知・徳・体」の総称的なものだが、その中でも「知」の部分、分かりやすく言えば「学力」。その学力の定義は、知識や技能、思考力、判断力、表現力、あるいは主体性や多様性、協調性等とあるが、特にその中でも、一番は「タフな思考力」を子どもたちにつけたい、育成したいと思う。

そう思うと、やはり小規模の中での子どもの育ちというよりも、「上田市小中学校のあり方検討委員会」から提言されている内容の一つである「適正規模での教育」が大事だという観点で、今までお話をさせていただいてきた。

ですので、この「生きる力」、特に「タフな思考力」をつけていくためには、西内小学校の規模よりは、やはり統合という方向が適切だと考えている。

### ●委員

西内小学校の統合については、長期にわたって地域の方たちと教育委員会側と非常に丁寧な対話を続けながら地域の方々の思い、保護者の方々の思い、それを十分に対話しながら続けてきた。

その中で、最終的な決定として私自身が一番言いたいところは、学校の学びとは何だろうという視点である。学習や知識の学びについては単独でできるかもしれないが、学校の学びというのはやはり集団の中での学び、つまり他を知って自己を知ることだと思う。自分とは異なるいろいろな考え方や環境において他を知ることによって、自分と他との比較だとか、その集団の中での役割だとか、他者との関わり方だとか、そういうことを知ることが一番学校の中の学びだと考えた。

そういう意味で、西内小学校の小規模の環境に置かれていて、今後の子どもたちが学校をご卒業してからの広い集団の環境の中でどういうふうに生きていくのかということ考えたときに、小学校のときの集団の中の学びというのは生涯において大きい影響を与えるものだと考えたため、西内小学校の統合ということを推進の方向で提案させていただいた。

これから日本も今まで以上に多国籍の人々が入ってきてグローバルな社会へと進んでいくと考えられる中で、本当に大切な多様な社会作りの学びと環境とは何か重点を置いて考えた。

### ●委員

私がずっと言ってきたのは、西内の地域の方々、子どもたち、保護者の方々の気持ちを大切にしていきたいということ。今回、懇談会などで統合に関してご賛同いただいた地域の方々の中にも、やはり西内小学校がなくなってしまうと思う人は1人もいない。子どもたちの教育環境を考えたときにこれだけの少人数でやっていけるのか、もっと多い人数の中で教育を受けさせた方が子どもたちのためなのではないかという思いから統合にご賛同いただいた方が大半だと思う。

そういった方々の気持ちを汲んで、丁寧な対応をしていっていただきたいというのが私の願いである。

昨年、今年と西内小学校を訪問させていただいたが、子どもたちは本当に生き生きとして元気で、いい子たちだった。そして西内小学校には素晴らしい教育がある。

長い歴史のある小学校で、登り窯があり、年に1回窯焚きをして陶芸の体験授業をしたり、金管バンドも有名だが、昨年は12人のメンバーでも、高いレベルを維持し、第25回東海小学校バンドフェスティバル東海大会に出場して、金賞も受賞した。学校に伺ったときには、陶芸の体

験授業で使う薪が山のように用意しており、地域の方や保護者の方がいかにこの学校を支えてきたかが分かる様子であった。

こうした学校がなくなるのが私個人的には本当に残念だと思うが、子どもたちにより良い環境で教育を受けてもらいたいという思いから、統合に賛成させていただいた次第である。

統合に当たっては、今後どうなるのかという地域の方々の心配事や不安のようなものを、一つ一つ解決して差し上げて、安心して統合に向かっていけるように、またこの学校が本当に長い歴史を持ち、素晴らしい教育を行っていた学校であるということが、今後も人々の記憶に残っていくような最後の1年を過ごしていただきたいと思っている。

## ●委員

西内小学校は、特色のある学校ということでテレビでもよく紹介されていたりして状況も知っており、もう15、6年前ぐらいだが、登り窯の見学や体験をさせていただいたこともあり、やはり特色ある学校として魅力ある学校だなと思っていた。しかし今年、学校訪問をさせていただき、正直言いますと私自身の仕事柄もあるが、家庭教師や学校の学習塾の個別対応のような、そんな授業の様子とだぶってしまう感じがした。先生が子どもに教えるという視点で考えれば、それはそれでできているが、学校という一つの組織の中で大きな役割としては、これから社会に出ていく前段階として集団の中でのルールであったり、役割であったりといったものを学んでいくのも、学校の大きな役割だなと感じている。その中で、そういったものを醸成することがなかなか難しい状況になっている。また、学び合いというような、子どもたち同士で気づきを得るようなことが非常に難しくなっているという状況を目の当たりにし、現在、複式学級になっていたたり在籍のいない学年が出てきたりしている状況だが、もう少し早くに取り組んであげられたら子どもたちにはより良かったのかなと感じたところで、統合という選択肢に賛成するというお話をさせていただいた。

今回、西内小学校の統合ということで、教育委員会では決定という形になったが、今後、上田市内の他の学校等でも少子化というのはなかなか食い止められないと思う。これからも、統合というようなことが、実際に課題として出てくる部分があるかと思う。そうした中で、今回も思ったのは、学校は地域の中での大きな存在であり、一つの地域の象徴、大きなシンボリックなものであったり、よりどころみたいなところであったりするのかなと思う。

上田市として、子どもが減っていくのを何とか防げるよう、上田市で子どもが産み育てられるというような環境、また魅力あるまちとして外部から上田市で子どもを育てたいというような人が大勢来るとかそういったような状況を、市としても作っていったらいいのではないかと感じた。市長部局、教育委員会といろいろな形で協力し、話をしながらそういった方向に行けたら素晴らしいと感じた。

## ●峯村教育長

今回の西内小学校の統合については、委員の皆さんからご発言いただいたことに尽きる。

教育委員会ではこの統合の決定に至るまで非常に慎重な議論を続けてきており、簡単に決まったわけではない。

協議会等でそれぞれご意見をいただく中で、例えば今まで長野県の中には子どもが1人になっても廃校しなかった市町村もあるではないかというご意見をいただいた。どうしたらいいのかということ、私自身も非常に悩んだ。

明治以降、学校がどのように地域に作られてきたかということを考えると、どの学校もその地域の一等地に建っている。一番いいところを、その土地の所有者が子どもたちのために提供してくださって学校ができている。そういう経緯がございますから、地域の皆さんが学校というもの

がどれだけ大事かということはお分かりになっている。そういう状況を十分分かりながら、それでは教育委員会としてどういう方向性を見出していけばいいのかということが一番大きな問題であった。

その点については委員の皆さんおっしゃった通り、私もそういう意見に賛成である。

一言で言えば自立ということ、次の時代を担う子どもたちが自立的に生きていくにはどういった教育環境がいいのかということが、その結論に至る理由である。子どもについてもどういった自立を促せばいいかということはもちろん、身の自立とか生活の自立が大事である。精神の自立も大事である。学びの自立も大事である。多様な他者の価値観の中で、自分の考えを求めながら生きていくという、そういった自立こそが今の教育に求められているのではないかと思う。

言い換えれば、次の時代を担う子どもたちが将来の人生にとってどういった環境がいいのかということを考えれば、地域の皆さんの思いは十分分かりますが、やむなく統合せざるを得ない。子ども第一に考えると、この統合の道を進むしかないというのが私の考えである。

市長にも折に触れて教育委員会の考えも少しずつお伝えをしてきた。教育委員会内でも非常に重い議論を続けてきたが、今回の西内小学校統合ということで結論を出させていただいた。

また、上田市としても西内の子どもたち、それから西内地区の皆さんに、物心両面での支援をさせていただいて、例え学校がなくなっても、西内地区に元気がなくなってしまうような状況に陥らないように、市長部局の皆さんと力を合わせて進めさせていただければありがたい。

## ●土屋市長

子どもたちが少なくなると、そういう中でももちろん学校の中での生活もありますし、また家庭の生活もありますが、特に学校で生活する時間が非常に長時間であるので、その中で子どもたち同士、私達もそうだが、人と人、あるいは人と物、あるいは人と自然と接触する中で様々な学びもある。

特に人と人との関係、気が合う好きなもの同士の関係もあるし、嫌いな人との関係もあるが、その中でも嫌いな人とでも一緒に生活していくという、そういう力をつけていくことは大事だと思う。それは、小学生に限らず社会人になっても当然だが、そういう意味では人と人との人間関係の中で思いやりを持つとか、あるいは優しさ厳しさ、あるいは感謝の気持ちを持つということが、人と人の中で磨かれていくと感じている。

そういう意味では、生徒と先生だけの関係でなく、そういう人間関係の中でいかに学んだり反省したり気づいていくかということが大事で、今の西内小学校の現状から少し次のステップに行つて、切磋琢磨しながら進んでいってほしいと思う。

そして教育委員の皆様のお話の中でも、先ほど触れていただいた内容もあるが、非常に重い決断をしていただいたと思う。

保護者の皆様、そしてまた地域の皆様との懇談を重ねた中での結論である。

教育委員会の判断を重く受け止め、教育委員会の考え方を尊重したい。

## (2) GIGA スクール構想の可能性について

### ●土屋市長

・GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の導入、また通信環境の整備に取り組んできた。

・導入の初年度に当たる昨年、いくつかの学校を訪問し授業の参観をさせていただいた。

・導入から1年半が過ぎ、教育委員の皆様も学校訪問を通じて、1人1台端末を使用した授

業を多く参観されたと思う。

・小中学校の授業における端末活用の感想、あるいはご意見等をお出しいただければと思う。

### ●委員

GIGA スクール構想に上田市も参加し、タブレット端末を配置いただきありがとうございます。

また、年間にかかる相当なランニングコストも負担していただき本当にありがたいと思っている。

タブレット端末、Chromebook を使った授業も大変多く参観させていただき、結論として、非常に「可能性」を感じる。ただ、気をつけなければいけないのは、タブレット、あるいはノートパソコンを1人1台持っているからといって、それが即学力の定着・向上に繋がっているという認識は、私にはない。

授業における Chromebook 活用の効果的な場面をいくつか見させていただいて、一番素晴らしいと思うのは、学力に関する「表現力」の部分である。例えば、それぞれの子どもの興味・関心に応じて検索ができ、学習課題における調査活動、学習のまとめ、プレゼンテーション等で、その子に応じた表現力が高まると感じた。

それから、「個別最適化」である。よく特別支援教育でも言われるが、簡単に言うと、子どもの習熟度に合わせた学びができるということ。

先日、小学校1、2年生の授業を拝見したが、指導する先生が非常に素晴らしかった。1時間中タブレットを使っているわけではなく、効果的な場面で使っていた。日頃から「わかる・できる・伸びる授業」が大切だと、私は言っているが、その伸びる授業に関しては、個の能力に合わせてどんどん自分で先に進める。つまりいている子は、そこで先生の指導が入るという面では、個別最適化の一つの手段になるということ。

他にも、例えば「双方向」。ただのオンラインの受け身の授業ではなく、いろいろ考えていても、手を挙げるのが苦手な子だっているわけです。そういう子がタブレットの中では表現できる。そういうことも非常に大事なことで、授業の中で見させていただいた。

オンラインで不登校の子が云々というのは、そういう効果があるという話もあるが、私の考えはやはり対面授業が基本である。

結論を言うとGIGAスクールは非常に可能性がある。タブレット端末は道具、文房具の一つだという認識である。

市長にお願いしたいことが、2つある。

1つは、これはリースのため、5年経つとリース契約が切れる。このGIGAスクール構想で端末が配布されるときは、国庫補助は1/2あってそれなりに国からの補助があった。5年経って、令和7年か8年、リース期間が切れた後の予算措置が国から示されておらず制度設計されていない。そのため、ぜひ県下の市町村が一緒になって、県の補助あるいは国の補助をいただけるような要望を今からしていただきたい、これが一番の願いである。決して家庭負担ということにならないようお願いしたい。

2つ目は、人的なことだが、今でも上田市はICT支援員が9名配置されており、非常にありがたいと思っている。

ただ、人事異動で他市町村から上田市に来たときに、以前はiPadを使っていたが、上田市に来たらChromebookを使うということで、戸惑う先生方も多いわけです。そのときに、研修の体制、あるいはICT支援員、指導主事の活用等、様々なことを考えていただきたいと思う。

## ●委員

私はちょうど導入の年から教育委員をさせていただき、学校訪問の授業を見る中で思うところがすごくある。1 つは、この GIGA スクールを進めたことによって、タブレットを使った学習とアナログ学習のメリハリある授業の進め方が重要であるということ。往々にしてタブレットを使った目的が明確でない自習だとか自己学習、調べ学習で長い時間を費やしてしまうような進め方をしている先生の授業も見た。一方、非常にメリハリをつけた授業の進め方をしている先生がいらっしゃる。個別の調べ学習としていろいろな方面から調べ、その調べたことについて発表の場を対面で行う、グループで話し合う。そういう学び方の意図を明確にしたメリハリを、このタブレットの使い方をよく理解し、活かした授業の進め方。残念ながら学校によっても差があり、先生によっても差があるというのが学校訪問での感想である。

そういう意味では、今後、大切なのは学校の先生同士が、タブレットを使った授業の進め方をどのようにしていくのかという、共有の学び、風通しを良くするということが今まで以上に重要だと思えますし、教材の共有化ということも、先生方の授業準備の負担軽減につながると思う。そうした中で非常に嬉しかったのは、教頭会に参加させていただいたときに、若手の先生と年配の先生との交流が、この GIGA スクールを導入したことによって、若手の先生たちのアイデアが年配の先生方にうまく提案され反映されたり、コミュニケーションがスムーズになったという話を伺った。この GIGA スクールを導入したことによって、先生同士の風通しを良くすること、そのことによってメリハリある授業運営等へ進んでいってほしい、というのが導入されて数年経った現在の私の気持ちである。

## ●委員

去年から教育委員をさせていただき、学校訪問などで ICT 教育など見学させていただく機会も多くあった。

娘が小学校中学校と通っているため、学校から端末を持って帰ってきて家で宿題をやるような場面が増えた。コロナ禍であったこともあり、私達大人も会議がオンラインになったり、人と人が集まるといことなしに繋がることができるということから、オンライン化が一気に進んだ感がある。学校の授業の方も授業参観がオンラインでできたり、子どもたちがその学校で何か発表したときの映像を、先生方が YouTube に上げてくださってそれを見ることができるとか、様々な利用の方法がみられた。

こういったことは、情報管理の問題もあるので、すごく様々な検討課題があるかと思うが、これだけスマートフォン含めてデジタル機器が普及している世の中で、学校だけはそういったものなしというわけにはいかないのではないかと私は思っている。もちろん「書く」、「読む」といったようなことも大切にしつつ、デジタル化も進めていただきたいと思う。

これからの可能性として、デジタルに触れる機会を増やすというのももちろん大事な体験だと思うが、こういった端末を利用することのメリットというのは良くも悪くも、離れた地点を結ぶだとか、より多くの人が一度に繋がることができるというところなのではないかと思っている。先日、長野県市町村教育委員会研修総会で、栄村の学校の取り組みの発表があり、そこでお聞きしたのが、「すみっこくらぶ」というもので、長野県の最北端と最南端の町の子どもたち同士が端末を使って交流をするというのがあり、本当に素晴らしい試みだと思った。やはり上田市でも市内の学校や、県内の他の小学校との交流だとかいったことに、端末が使われれば素敵だなと思う。

また、不登校の子がどうしても学校に来られないときに、端末を使って授業を受けるというのも一つ今後の可能性としては、ありではないかと思う。学校に居場所のない子どもたちにとっては、いたずらに時間を過ごしているよりは学校の授業もきちんと受ける体制というのがあっても良いと思っている。また、優秀な先生もたくさんいらっしゃると思うが、本当に素晴らしい授業が

一つあったとして、そういった授業がオンラインでより多くの方が受けられるといった事があっても良い、これは可能性としてのお話だが、そういったことも今後検討されていっても良いと思う。より良い方向に使っていただきたいと思う。

また、データを一元化することで、情報管理の問題とかたくさん課題があると思うが、その子にとってどういった教育の内容が最適かということが検討しやすくなるシステムのようなものも今後できていっても良いと思う。

本当にすごく可能性のあるツールだと思うので、検討を重ねながら安全に、有意義に使っていただきたい。

## ●委員

私もこの GIGA スクール構想が始まって非常に様々な可能性を感じている 1 人である。

今年、学校訪問等させていただき、ICT を使った授業をいろいろと拝見した。やはりまだ始まって 2 年ですか、そういった中で非常に有効に使われている先生もいれば、まだ手探り状態なのかなと感じる先生も正直いる。そういった中で、Chromebook といったものはやはり一つのツールだと思っており、万能であるというわけではないが、これを使う場面というのはこれから増えていくのではないかな。

私自身が今までイメージしていたものを遥かに超えていることが世の中で起きている。学校現場でも驚いたのは、音楽や美術の授業の中で、Chromebook をうまく活用している先生もいらっしや、体育など教科に関わらず様々な形で活用できるということを改めて知り、目からうろこが落ちたような感覚も覚えた。

これから機器の性能自体や Wi-Fi 等の環境等も当然そうだと思うが、その中に入ってくるいわゆるアプリのような教材、そういったものも工夫された新しいものが出てくると思っている。

そうした中で先生も生徒も ICT に抵抗がない状況を作っていくことが大事と感じている。

現場の先生、特に小学校の先生を見ていると本当に余裕もない中で頑張られていると感じており、この GIGA スクール構想をうまく活用することで、先生の余裕みたいなものを作り出していけるのではないかな。例えば、GIGA スクールというのも一つの学校だけのことではなく、学校同士の連携を進め、合同授業のようなものをいくつかの学校でやることで、その間、担当した先生に余裕が生まれてくるということもあるだろう。特に小学校の先生は授業研究するのも、一日中授業が詰まっっていて、自分の時間で授業研究しなさいという形は、働き方改革と言われている中では通用しないものではないかなと思っており、子どもたちのために、そういう先生に余裕が持てるようなことが必要になってくると思う。GIGA スクールをうまくかみ合わせることでそういったことも可能なのではないかなと感じている。

教材もデジタル化されたりすることで、先生同士がコンテンツを共有していくことも楽になる。

授業を見学した際に、子どもたちがグループでパワーポイントを使って研究発表をしており、大人顔負けで、そこには自分たちで撮った動画を組み入れたプレゼンテーションが出ており、こんなことが小学生にできるのだと、自分の頃を考えたら本当に夢の中の世界のようなことをやっている子どもたちを見てびっくりした。子どもたちにとってはそれが当たり前になってきており、もっと促進させてあげられるような、器だけのものにならず中身のソフトの部分というものを充実していくことが大事だと思っている。様々な視点からこの GIGA スクール構想を市全体として盛り上げていけるような形になってほしい。

## ●峯村教育長

市長には上田市の限りある財源の中から多額なお金を出していただき感謝している。

おかげで全国に遅れることなく、上田市の GIGA スクール構想が出発したと思う。

今に生きる我々は未来の社会がどのようになるか分かっている人は誰もいない。そういう中にあって、今後その社会の大きな流れの中で人類は AI や ICT から離れることはできないと思う。それを投げ捨てて元の生活に戻るといことは、絶対ないわけである。

そうした中で、未来に生きる子どもたちにとって、この AI・ICT というのをどのように子どもたちの中に育てていけばいいかということが一番大きな課題だと思う。

これが目的ではなく手段であるので、使いこなす力とか技能が大事であって、人間形成にとってどうかということは、未知の世界だと思う。

そのような手探りの中で今進んでいるわけだが、成果が見えてきている部分がある。それは、子どもたちが調査活動をする際に、非常に様々なものを使いながら自分なりの調査をし、自分なりの情報を集める力をつけてきている。それから、授業の中でも自分の思いをそれぞれが書き込んで、一斉に全体が見られる画面の中にそれが現れるわけである。今までは、教師が子ども一人一人の意見を黒板に書き留めなければクラスの全体像、子どもたちの考えの全体像が分からなかったが、一瞬にしてそれが分かる。これはすごいことだと思う。

それから、上田市の職員専用のサイトがあるが、そこには良い事例をたくさん集めている。困ったらそれを見れば、次の一手が打てるというところまで来ている。

ただ、そうした中で不安もある。果たしてこの流れの中で、教育活動が流れに流されるまま進んでいって良いのかどうか。不易と流行という言葉があるが、時代が流れても変わらないもの、それからその流行をしっかり捉えてその時代に合ったものを取り入れていくこと。これはとても大事なことだと思う。そういうことを十分胸に留めながら、大事なことは教育の本質を見失わないことだと思っている。今まで私が育ってきた教育の世界では、教育は人が人を育てるということを言われ続けている。ある先輩は教育とは人格から人格への口伝であると教えてくださった。

そういったことも十分頭に入れながら、この GIGA スクール構想を進めていきたいと思う。

## ●土屋市長

1人1台端末という、ちょうど1年半ぐらい経つが、今まで私達もなかなか想像のつかなかった世界であるが、上田市も令和3年度からのスマートシティ化推進計画を策定し、ICTの利活用による市民サービスの向上あるいはスマートシティ化への挑戦と転換ということを掲げている。

委員の皆さんからも、ICTの活用力向上に向けた支援、あるいはGIGAスクール構想実現に向けた環境整備、あるいは積極的な活用に向けた支援を望むということもあるため、その支援についてはしっかりと取り組んでまいりたい。

教育現場を拝見したときに、先生方もより一層深い交流ができたという話も聞いており、様々な形で情報の共有化もされてくると思い、また取り組んでいく必要があると思う。

そして、生徒の皆さんは柔軟性が非常に高いと思っているが、デジタル格差がないようにするにはならないということもあるので、先生方にも、支援員の先生方にもうまくお願いしたいと思っている。先生方などの研修をしっかりと取り組まなければいけない。

いずれにしても、あくまで一つの手段であるので、大いに利活用いただく中で、前段の西内小学校の話の中でも触れたが、人と人とのコミュニケーションあるいは人間力向上、また人と人との対面、あるいはふれあいが大事であるため、そちらの面も今まで以上に進めていただければありがたい。

### (3) 教育委員会に係る組織改正について

- 非公表

## 5 その他

- 大矢政策企画部長

次回会議については、3月下旬に開催を予定している。  
詳細日程については、後日、御連絡させていただきたい。